◇新刊紹介

福井県地域史研究　第一〇号　福井県地域史研究会編・発行　平成元年六月　A5判　一二〇頁　定価八〇〇円（送料二〇〇円）

福井県地域史研究会の発足後二〇年の画期を迎え、記念特集号の性格をもたせただけに、会員各自のすぐれた力量が遺憾なく発揮されたものとして大いに注目をひく。まず松原信之「越前国池田庄と池田氏」では、池田氏にかかわる諸文書を克明に分析したうえで、鞍谷・朝倉両氏とのさまざまな関係を解明し、さらに近世大名池田氏との関連にまで追究した労作である。次に本川幹男「福井藩初期の

民政組織について」は、給帳類の詳細な検討により、民政職とその際立った職務内容を明らかにするが、とりわけ地方支配の代官の任務は、奉行と同じく貢租関係を中心としながらも、民政全般に及ぶことを明快に指摘する。

また藤野立恵「丸岡藩の年貢取立ての変遷」は、元禄期以降の年貢率の定率化と低率化の傾向にもかかわらず、窮乏化する農村社会の実態にメスを入れた点が大いに注目をひく。さらに舟沢茂樹「福井藩における陪臣について」は、明治二年の給禄改正の時期に視点をすえ、陪臣の存在状態に照明をあて、さらに重臣酒井（温）家の家人の具体内容を明らかにする。さらに翌三年の「武生騒動」につき、藩の直臣と陪臣間の葛藤の一断面を考察する。最後の吉田叡「足羽県の行政組織について」は、『足羽県布達』を中心に検討を加え、明治五年当時の戸長制・壬申戸籍・壬申地券・教育などの近代化路線の地域末端への浸透度を考察している。（三上一夫記）

お問い合わせ・お申し込みは、福井市内の主要書店または福井県地域史研究会（福井市松本一―三〇―二〇　松原信之方〔〇七七六―二三―七八二九〕）まで。